

IAUD Newsletter vol.12 第3号(2019年6月号)

1. 「第7回国際 UD 会議 2019 in バンコク」開催報告④..... 1
2. 「IAUD 国際デザイン賞 2018」受賞紹介③..... 5
3. 「IAUD 国際デザイン賞 2019」募集開始のご案内..... 13
4. 「第3回 IAUD 学生コンペ」募集開始のご案内..... 13
5. IAUD 6月の予定..... 14



より多くの方に UD を理解していただくために

「第7回国際 UD 会議 2019 in バンコク」開催報告④



UD 公開ワークショップ 2 フィールド調査の様子(タイ・バンコク)

初の海外での開催となった「第7回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2019 in バンコク」が3月4日(月)から6日(水)までの3日間、モンクット王工科大学ラートクラバン校コンベンションホール(タイ・バンコク)で行われ、世界各国から多数のご参加をいただき大変盛況のうちに終了いたしました。

2日目と3日目には、より多くの方に UD を理解していただくために、どなたでも無料でご参加いただける UD 公開ワークショップが開催され、多数のタイの学生や一般の方々にご参加いただきました。

今号の Newsletter では UD 公開ワークショップの実施概要を報告します。

多くのタイの学生や一般の方々が参加

UD 公開ワークショップは世界各国からの UD 有識者をリーダーにお迎えし、市民にも親しみやすい内容で4回実施しました。

3月5日(火)に行われたワークショップ1、2は、当事者参加型の実践的ワークショップでした。

視覚障害者や車いす利用者など UD の対象となる人々が参加し、その人々の身になって考え、体験することで製品や施設の有効なデザイン提案に結びつくことが実証されました。

3月6日(水)に行われたワークショップ3、4はディスカッションを通じたアイデア開発型のワークショップでした。

今回の国際会議のテーマ「UD による持続可能な発展」に沿い、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」と UD の関係やタイの主力産業である観光業における UD とサステナビリティの関係について議論を深めました。



UD 公開ワークショップ受付

■UD 公開ワークショップ1～プロダクトデザイン～

「多様なユーザーと取り組む、製品のユニヴァーサルデザイン」

「誰一人も取り残さない」の切り口から、実用的な湯沸かしポットをデザインするユーザー参加型ワークショップを行いました。

実際に湯沸かしポットを使いながら、主に視覚障害を持った参加者が重くて火傷の危険がある製品の構造をどのように認識し、使おうとするかという点に着目しつつ、より安全で使いやすいプロダクトデザインのアイデアを出し合いました。

リーダー：荒井 利春(金沢美術工芸大学名誉教授：日本)



リーダーの荒井氏



ワークショップ1の様子。最後にはグループごとにデザインのアイデアを発表した

■UD 公開ワークショップ2～実践的研究～

「ユニヴァーサルデザインを理解するための使用者と専門家による現実に即した調査研究」

実践的研究をテーマに、プロセスの価値を理解するユーザー参加型のワークショップを行いました。

主に視覚障害を持った参加者と共に会場であるモンクット王工科大学ラートクラバン校キャンパス内外を歩き、施設や道路の問題点を探りました。

そして、視覚障害者や車いす使用者が通行する上での歩道の構造的欠陥や道路横断の困難さ、施設や設備のデザインの欠陥が明らかになり、参加者間で UD にするための方向が共有されました。

リーダー: ヴァレリー・フレッチャー(人間中心デザイン研究所所長: 米国)

助手: ウィア・クロリウス(人間中心デザイン研究所ユーザー・エキスパートラボ部長: 米国)

ジェームズ・フシェッティ(人間中心デザイン研究所デザインフェロー: 米国)



ワークショップ 2 の様子



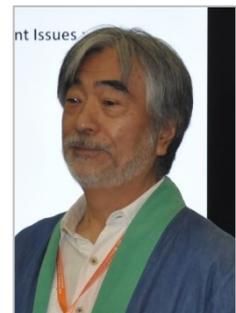
参加者全員で集合写真。左から5人目がリーダーのフレッチャー氏

■UD 公開ワークショップ 3～サステナブルデザイン～ 「サステナブルな社会のためにユニヴァーサルデザインが出来ること」

今回の国際会議のテーマ「UD による持続可能な発展」に沿い、SDGs を達成するために UD が役立つことは何か、グループごとに具体的な事例を挙げながら自由に議論しました。

そして、機会均等や平等な社会を作るために皆に同じものを与えるのではなく、固有性や多様性が包括性の前提であるなど重要な点が確認されました。

リーダー: 益田 文和((株)オープンハウス代表: 日本)



リーダーの益田氏



ワークショップ 3 の様子。最後にはグループごとに議論内容を発表した

■UD 公開ワークショップ 4～サステナブルツーリズム～ 「サステナブルツーリズムのためのユニヴァーサルデザイン」

UD の視点でツーリズムの課題を発見し、共有するワークショップを行いました。

今回の国際会議のテーマ「UD による持続可能な発展」に沿い、タイの主力産業である観光産業における UD の導入の必要性及びそれにより観光地にもたらされる環境破壊の可能性などについて、タイ北部にあるパイ・キャニオンとカレン族の村を事例に検証しました。

また、観光の対象となっている少数民族やその文化が特殊であるために観光的な価値があるという、包括性に対する矛盾についても議論しました。

リーダー：岩瀬 大地(東京造形大学准教授：日本)



リーダーの岩瀬氏



セッション 4 の様子。ツーリズムの課題を共有した。

※「第 7 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2019 in バンコク」開催報告①②③は下記の Newsletter をご覧ください。

[IAUD Newsletter vol.11 第 12 号\(2019 年 3 月号\)](#)

[IAUD Newsletter vol.12 第 1 号\(2019 年 4 月号\)](#)

[IAUD Newsletter vol.12 第 2 号\(2019 年 5 月号\)](#)



持続可能な共生社会の創造を目指して 「IAUD 国際デザイン賞 2018」受賞紹介③

「IAUD 国際デザイン賞 2018」受賞紹介の3回目は、医療福祉部門金賞のパナソニック株式会社「歩行トレーニングロボット」と、ファッション部門金賞の株式会社資生堂「プリオール」です。

IAUD 国際デザイン賞 2018 審査委員会のロジャー・コールマン委員長(英国王立芸術大学院名誉教授)は「歩行トレーニングロボット」に関して、「従来の歩行器に取って代わる、進化形の歩行器。歩行困難な人々を支援して転倒を防ぐイノベーションであり、リハビリテーションと日常生活に新たなデザイン分野を切り拓くもの」と高く評価しました。

また、「プリオール」については、「高齢女性層の化粧品ニーズに対応する、タイムリーでよく練られた製品開発とブランディングの事例。シニア女性特有のニーズと要望を、真に高齢者に優しく、非差別的な形で満たす化粧品ラインを提供するという長年の大望を果たした」と高く評価しました。

今号の Newsletter では、「歩行トレーニングロボット」の取り組みをパナソニック(株)の中尾洋子氏に、「プリオール」の取り組みを(株)資生堂の塩田笑子氏に報告していただきます。

※「IAUD 国際デザイン賞 2018」受賞結果と審査講評の詳細は下記のリンクをご覧ください。

[IAUD 国際デザイン賞 2018 受賞結果発表](#)

[IAUD 国際デザイン賞 2018 審査講評](#)

※「IAUD 国際デザイン賞 2018」受賞紹介①②は下記の Newsletter をご覧ください。

[IAUD Newsletter vol.12 第1号\(2019年4月号\)](#)

[IAUD Newsletter vol.12 第2号\(2019年5月号\)](#)



高齢者に安心して適切な歩行による自立をサポート IAUD 国際デザイン賞 2018 金賞:「歩行トレーニングロボット」 パナソニック株式会社

使うたびに元気になる歩行支援ツール

今日の超高齢社会において、“介護”から“介護予防”に向けた大きな方向転換が進められる中、「歩くこと」は介護予防の第一歩と言われています。

「歩行トレーニングロボット」は、歩くことに対して不安を抱える高齢者に、安心して適切な歩行を提供することで自立をサポートし、使うたびに元気になることを目的とした歩行支援ツールです。

歩行支援ツール「歩行トレーニングロボット」→



健康寿命を延ばすために

日本は世界に先駆けて超高齢社会に突入しています。2030年には総人口の1/3が65歳以上になります。

超高齢社会では、生産人口の減少、医療制度の破綻など含め、様々な課題が指摘されています。これは、高齢者だけでなく、若い人も含めた日本全体に影響があり、より多くの人と共に生き生きと暮らせる社会を目指す、パナソニックのUDとして取り組むべき重点課題と考えています。

そこで、この課題に対して我々が何をすべきか、多くの専門家と勉強会を重ねて、大事なことは、健康寿命を延ばすことだと分かりました。日本の平均寿命は80歳を越えています。最後まで自立されている高齢者は男性でも1割、女性ではほとんど居ないと言われています。健康に長生きできないことは、高齢者自身にとっても、社会にとってもマイナスです。

健康寿命を延ばし、自立した生活を送る為に大切なことの一つは“自分の足で歩くこと”です。でもその大切さを分かっている、高齢になると身体の不調やけがの予防意識から、歩くことに不安を抱える方も少なくなく、十分に歩くことができないことがあります。

そこで、テクノロジーを用いて、手軽に、安心して、適切なトレーニングを可能にする、「歩行トレーニングロボット」を作りました。

「歩行トレーニングロボット」の仕様

「歩行トレーニングロボット」は、ハンドルの下に6軸のセンサーと制御ユニットがついており、ハンドルを持って体を支えながら歩くと、歩行能力を解析することができます。

解析した歩行能力に合わせて、後輪に搭載されたモーターを制御することにより、最適な運動負荷を提供できるようになっています(図1)。

使用する高さは、使っている本人が簡単に調節できる機構をつけました(図2)。



図1: 運動負荷をかける仕組み



図2: 簡単に高さを調整可能なダンパー機構

デザインのポイントとなるハンドルは、その人の身体の状況や好みにより、上をもつてもたれかかるように使うことも、ほとんど力をかけずに軽く手前を持って使うこともできるカタチにしています(図3)。



図3: 身体の状況や好みに合わせて様々な持ち方ができるハンドル

GUI[※]は、“見やすく、使いたくなるモチベーション GUI”というコンセプトでデザインしました。歩行中は、歩き方のバランスや歩いた距離などを表示しますが、操る喜びを感じやすく、状態が一目で分かりやすいタコメーター風のデザインにしました(図4)。

また、設定画面も負荷の程度が分かりやすく、調整もしやすくしています(図5)。

※グラフィカルユーザインターフェース。コンピュータへ出す命令や指示等を、ユーザーが画面上で視覚的に捉えて行動を指定できる。



図4: タコメーター風デザインの歩行中画面



図5: 負荷の程度が分かりやすい設定画面

さらに、トレーニングを行った距離や速度、左右の足にかかる荷重の偏りなどの歩行データが自動で記録できるようになっていて、トレーニング直後に画面で確認できるほか(図6)、報告書も自動作成してくれます。

これにより、使っている方やサポートする方が、状態を客観的に把握して、日々の能力の向上も確認できるので、モチベーションアップに繋げることができますし、トレーニングをサポートする方の手間も削減できます(図7)。

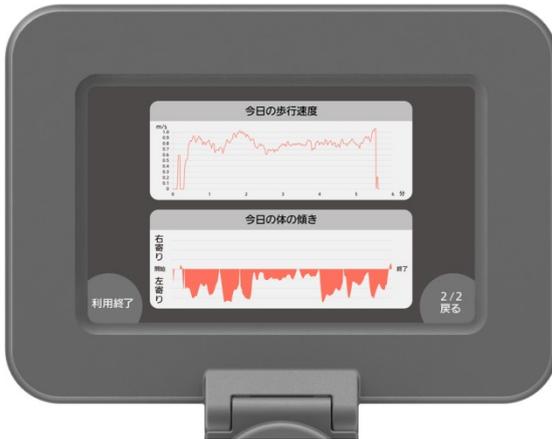


図 6: 歩行トレーニングの記録の確認画面



図 7: 自動作成される報告書の事例

AI 技術で安心感のある適切な歩行を実現

歩くことに不安を抱える高齢者に向けての歩行補助具は、実は数多くあります。ですが、単純なキャスター付き歩行器では軽すぎて支え切れず前方に転倒するなどの事故に繋がることがある一方、上り坂で負担を軽減するなどのアシスト付き歩行器では、受け入れられる負荷まで軽減して筋力を低下させてしまう可能性があります。

そこで、当社独自の AI 技術を用いて、一人ひとりに最適な負荷をかけながら、効率的な歩行トレーニングができるツールを開発することにより、安全な歩行を提供しつつ身体機能の低下を軽減し、能力を高めていくことができるのではないかと考えました。

これは、多様な人に最適な対応ができるように技術が進歩したことによる、新しい UD のかたちではないかと感じています。

ユーザビリティ向上を徹底させたデザイン

技術が優れていても、使う人やサポートする人に継続して使って頂けるものでなければ意味がありません。

まず、使う人が「使いたい」と思って頂けるように、福祉機器に見えないデザインを意識しました。デザイナーは実際に使われる施設で観察を行うと共に、自らも高齢者体験グッズを身に付けて、どうしたら身体機能の弱っている方にも使いやすいか、使っている方がかっよく使えるかを考え、プロトタイプで検証を重ねました。その結果が、様々な持ち方のできるハンドルの形状や、視線を遮らず必要な時に見やすいモニターの位置、使っている人の姿勢が良く見える本体の角度などに反映されています。

エンジニアは、サポートする人にも「使いたい」と思って頂けるように、装着などの面倒な事

前準備は不要にし、独自の AI 技術でトレーニングの専門知識が無くても最適なトレーニングができるようにしました。

歩行データを自動で記録できるようにしたのも、忙しいサポートする人の手間を少しでも削減したかったからです。また、トレーニングの効果は目視などでは実感しにくいのですが、記録されたデータで客観的に効果を確認できるようにしたことで、サポートする人のモチベーションアップにも繋がられているようです。

超高齢社会をみんなが生き生きと輝ける社会に

現在までに 350 名を超える高齢者の方に実証検証を行ってきました。その中で、骨折された方の歩く能力が向上したり、普段あまり話さず表情も乏しい方が、トレーニング後に笑顔で会話をされるようになるのを目の当たりにしてきました。

歩行支援として、さらに高齢者1人ひとりに深く寄り添う取り組みを続けると共に、このような取り組みを通じて、超高齢社会をみんなが生き生きと輝ける社会にすることを目指します。



ユーザーとの実証実験の様子→

※「歩行トレーニングロボット」の詳細は[こちら](#)をご覧ください。



シニア女性の輝く笑顔を応援

IAUD 国際デザイン賞 2018 金賞:「プリアール」
株式会社資生堂

新しいビューティースタンドを提案「プリアール」

資生堂は 1872 年に創業し、1916 年には意匠部が設立され、その理念や思想が現在のクリエイティブ本部に引き継がれています。

クリエイティブ本部内には約 20 名のプロダクトデザイナーが所属しており、多岐にわたるブランドにおいて、価値あるデザインを生み出し続けています。

資生堂「プリアール」は、社会で存在感を増しているシニア女性のための、新しいビューティースタンドを提案する総合ブランドとして開発されました。

6672 名の 50 歳以上の女性に対して調査を行い、そこでわかった彼女たちの共通意識、「加齢と上手につきあいながら、私らしく輝きたい」という強い思いに基づいてデザイン開発が行われ、2015 年 1 月に約 70 アイテムにわたるシリーズが発売されました。



「プリアール」シリーズの主なプロダクト

シニア女性のニーズと嗜好を満たすデザイン

美しくなるために、難しいテクニックや面倒なステップは踏みたくない。キレイとラクチンを同時に叶えたい。そんなニーズに応えるために、プロダクトには様々な工夫が施されています。

パッケージは、“モノの在り方が心地よさを決める” というコンセプトのもと、自然と所作が美しくなるような工夫を随所に凝らしています。

装飾要素にもさりげない配慮を施すことで、小さなストレスを感じさせないよう、毎日使うことが億劫にならないよう、気遣いがされています。

加えて、使いやすさを大げさにアピールしてしまうと、“年寄り扱い” されたと嫌がる繊細なシニア女性の心をうまく汲み取り、バランスのよいデザインを心がけています。

自分で使って心地よいものは、他人にも勧めたくなるものです。この世代の女性はロコミへの信頼度が圧倒的に高いという背景もあります。

デザインのテーマは、「Energetic Gems」。手にするだけで、一瞬で気分が上がり、女っぷりを上げてくれる、大ぶりの宝石のようなパッケージとなっています。

今の自分が一番好き！と思えるような、シニア女性の輝く笑顔を応援したい。そんなブランドからのメッセージが込められたパッケージとなっています。

Haircare
生命感
Sense of vitality

永遠・成長を感じさせる力強さ
Strength in growth and permanence



Makeup
高揚感
Exaltation

気分をうきうきさせる華やかさ
Glamour that excites



Skincare
叡智の結晶
Crystallization of wisdom

機能性を感じる整然としたきらめき
Glistening with order and functionality



大ぶりの宝石のようにデザインされたパッケージ



口紅

装飾的なカットや丸みを帯びた角柱にすることで、持ちやすく、転がりにくい形状に。紅先は、唇へのあたりがよく、スムーズに描ける形。



箱

アイテムの内容を分かりやすく伝える、UD 書体を用いたレイアウトと、店頭で目につきやすいカラーリング。



使い方の説明

使い方の説明が必要なアイテムは、開封時に最初に目に止まるように箱を設計。カラービジュアルを多用して、分かりやすく。



カラーパレット

アイカラーやチークの中皿は、塗る部分がイメージしやすい形状と、使用順を直接エンボス表記することで、テクニックいらずで手軽に使えるように。



コンパクトの側面

コンパクトケースの側面には緩やかな斜面を設けてあり、そこが指がかりになるため、ホールドしやすく、開けやすい形状です。



軸物

芯先が視認しやすいプロダクトカラーと、キャップの形状を丸みの帯びた角柱にすることで、置いても転がりにくく。

デザインの更なる進化と改善へ

2019年の今年はプリオール発売から4年を迎え、日本人口におけるシニア女性の占める割合は年々増加しています。更なるニーズや嗜好に応えるために、引き続き商品開発が進められています。

デザインに関しても、お客さまからの声と真摯に向き合い、心から使いたいと思っていただける商品を届けられるよう、進化と改善が繰り返されています。

ターゲットであるシニア女性の明るく楽しい毎日に寄り添い、サポートしながら、彼女たちが笑顔になれるような様々なコミュニケーションを発信したり、イベントを開催したりもしています。

これからも資生堂のプリオールに、どうぞご期待ください。

※「プリオール」の詳細は[こちら](#)をご覧ください。



持続可能な共生社会の創造をめざして

「IAUD 国際デザイン賞 2019」募集開始のご案内

IAUD は一人でも多くの方が快適で暮らしやすい UD 社会の実現に向けて、特に顕著な活動の実践や提案を行なっている団体・個人を表彰する「IAUD 国際デザイン賞」を、今年も実施いたします。

「IAUD 国際デザイン賞」は、多様性と包摂性、人権や人間性を尊重した安心・安全な社会、自発的かつ持続的な対話、世代を超えた知恵と技の継承などに配慮した持続可能な共生社会の創造を到達目標としています。

第1次審査応募締め切りは7月31日(水)です。皆様の応募をお待ちしております。



「IAUD 国際デザイン賞 2018」表彰式の様子
(タイ・バンコク)

※「IAUD 国際デザイン賞 2019」の詳細は[こちら](#)をご覧ください



これからの理想の暮らしと住まいを考える

第3回 IAUD 学生コンペ「2025年以降の日本の暮らしと住まい『UDプラス』のプロトタイプを考える」募集開始のご案内

誰もが心豊かに暮らせる暮らしと住まいづくりを目標に、「楽しい UD」の実現を目指している IAUD 研究部会は、学生の皆さんにフレッシュで斬新な提案を募る第3回 IAUD 学生コンペ「2025年以降の日本の暮らしと住まい『UDプラス』のプロトタイプを考える」を実施します。

このコンペは大学、専門学校の学生が対象で、審査料は無料です。グランプリには賞金5万円が授与されます。

応募締め切りは10月7日(月)です。皆様の応募をお待ちしております。



第2回 IAUD 学生コンペ審査会の様子
(東京・八丁堀)

※「第3回 IAUD 学生コンペ」の詳細は[こちら](#)をご覧ください。

※「第1回 IAUD 学生コンペ」の審査結果は[こちら](#)をご覧ください。

※「第2回 IAUD 学生コンペ」の審査結果は[こちら](#)をご覧ください。



IAUD 2019年6月の予定

月	火	水	木	金	土	日
3	4	5	6	7	1/8	2/9
10	11	12	13 14:00~ 余暇の UDPJ @IAUD サロン	14 13:00~ 第1回理事会 @IAUD サロン	15	16
17	18	19	20 13:00~ 衣の UDPJ @IAUD サロン	21	22	23
24	25	26	27 13:30~ 標準化研究 WG @IAUD サロン	28 16:00~ 第1回評議員会 @セルリアンタ ワー東急ホテル	29	30

次号は7月上旬発行予定

特集:余暇のUDPJアンケート調査報告／「IAUD 国際デザイン賞 2018」受賞紹介④ほか

一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会
事務局:〒225-0003 横浜市青葉区新石川 2-13-18-110
電話:045-901-8420 FAX:045-901-8417 e-mail:info@iaud.net